

## さんりく 明日へ

東日本大震災を乗り越えて、  
前に進もうとする三陸の人たちからの  
メッセージを届けます。



縫い物は、節子さんが中心となって行っている。「感謝の気持ちを伝えたいから、自分たちが使うものより、お礼の品を先に」と、毎日のように集まって、着物風の上着や刺し子のベストなどを作り続けてきた。

松巖山 龍泉寺  
岩手県山田町織笠15-57-1  
<http://ryuzenzenji.e-tera.jp/>

場を提供する住職

石ヶ森桂山さん

山田町織笠の龍泉寺では、地域のお母さんたちが集まって縫い物をしていた。上着を縫い、支援助物を送ってくれた人々へ、お礼の気持ちを込めて送るのだという使っている布は、支援として送られたものだ。

寺をそうした集まりの場として開放しているのは、住職である石ヶ森桂山さん。5月には、ミュージシャンを受け入れ、龍泉寺音楽祭を催した。石ヶ森さんは、寺は自分のものではなく、皆のものだと考えている。「だから、葬儀や法事とききだけでなく、いつでも来てくださりよという気持ちです」と話す。

つた中で、母の節子さんは炊き出しを始めた。地元の消防団員や寺を訪れた人たちに食事を提供するためだ。大人数で、いっしょに食事をする日々が続いた。

石ヶ森さん自身は、亡くなった人たちに弔う一方、お茶を供しながら話に耳を傾ける行茶・傾聴活動を通じて、被災した人たちの心に寄り添い続けた。たいへんなときをともに過ごすことで、「地域の人たちと本当の絆ができたと思います」という。

これからも感謝の気持ちとともに皆で集い、手を取り合っていくつもりだ。「青い空の下で人はつながっているのですから」と、石ヶ森さんは穏やかに微笑んだ。

どんどん使ってもらっている  
寺は皆のものなんです

